

令和6年1月23日(火)

喜入と喜入中の歴史

「喜入」の名は、室町時代の1414年(応永21年)に、島津氏第8代当主の島津久豊がこの地で上げた戦いでの勝利を祝して「給(給食の給)黎(黎明の黎)」を「喜入」と改めたのが最初です。

「喜び入る」この地は、1889年(明治22年)4月に市町村制施行により喜入村となって以来、喜入の名は一度の変更もなく今日に至っています。1956年(昭和31年)に町制が施行され、喜入町となりました。1969年(昭和44年)には喜入のシンボルともいえるべきエネオス石油備蓄基地が操業を開始し、喜入のみならず日本全体に恩恵を与えています。

喜入中学校は、喜入村立喜入中学校として、旧喜入青年学校跡地に、1947年(昭和22年)5月に創設されました。発足当時は校舎もなく、喜入小学校の一部と旧喜入青年学校の一部を利用して校舎としたようです。1948年(昭和23年)に旧喜入青年学校が廃止となり、中学校はその青年学校跡を利用しました。開校当時は、生徒数551名、学級数11学級、職員数21名だったそうです。1956年(昭和31年)に、町制施行により喜入町立喜入中学校となりました。1972年(昭和47年)に町内の喜入中・瀬々串中・生見中の3中学校が名目統合、即ち3つの場所に分かれたまま統合しました。統合時の生徒数は816名、学級数は24学級でした。翌年1973年(昭和48年)、今の喜入中の場所に実質統合しました。その時の生徒数は755名、学級数は19学級でした。

その後、2004年(平成16年)11月1日に、鹿児島市と旧5町の吉田町、桜島町、喜入町、松元町及び郡山町とで市町村合併を行い、旧喜入町は鹿児島市となりました。この合併により、本校は鹿児島市立となりました。